

広げよう福祉の輪！

三徳だより

第104号 2021年(令和3年)秋・冬合併号 一季刊

発行：社会福祉法人三徳会
<https://www.santokukai.com/>



戸越台ホーム
屋上庭園
リニューアル完成

特別養護老人ホーム 成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0053 品川区中延1-8-7 TEL.(代)03-3787-3616 FAX.03-3783-6580 santoku-seikou@ap.wakwak.com

品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0041 品川区戸越1-15-23 TEL.(代)03-5750-1054 FAX.03-5750-1055 santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp
杜松在宅介護支援センター <http://www.togoshiginza.net/togoshi/machi/topics/topics.cgi>
〒142-0042 品川区豊町4-24-15 TEL.(代)03-5750-7707 FAX.03-5750-7709

品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0063 品川区荏原2-9-6 TEL.(代)03-5750-2941 FAX.03-5750-3695 santokukai@aw.wakwak.com
小山台在宅介護支援センター
〒142-0061 品川区小山台1-4-1 TEL.(代)03-5794-8511 FAX.03-5794-8512

品川区立平塚橋特別養護老人ホーム・ショートステイ
〒142-0063 品川区西中延1-2-8 TEL.(代)03-5750-3632 FAX.03-5750-3642 hiratuka-ow01@santokukai.com

品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」
〒142-0062 品川区小山7-14-18 TEL.(代)03-5749-7251 FAX.03-5749-7252
小山在宅介護支援センター TEL.(代)03-5749-7288 FAX.03-5498-0646



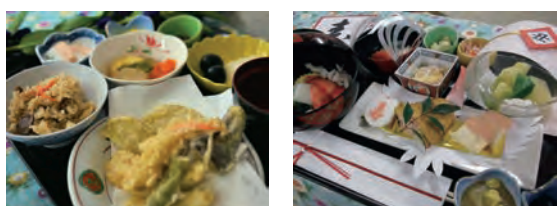
昨今の新しい生活をご紹介します

2020年の幕開けは新型コロナウイルスで始まりました。4月7日には7都道府県の緊急事態宣言が発令され、東京オリンピックの開催も延期となりました。このような情勢から、施設ではやむなくイベントや外出を中止し、ご面会の制限をするなど感染対策を強化してきました。

いろいろあった2020年。明るい話題が待ち望まれるなか、皆で知恵を出し合いご利用者の生活を楽しく豊かに過ごしていただく工夫をしてきました。そんな日常の一コマをご紹介します。

季節を味わう行事食

外出もままならず、四季を感じる事が少なくなりましたが、お食事は旬の味わいを堪能していただきました。敬老のお祝いは松茸ごはんと天ぷらの御膳です。お正月のお膳はいつにも増して華やかです。



マスク姿も日常に

恒例の夏祭りは中止となりましたが、お祭り気分景気づけ!と、威勢よくお神輿が練り歩きました。お正月は熱戦カルタ取り。5人寄ればマスクは必須アイテムです。



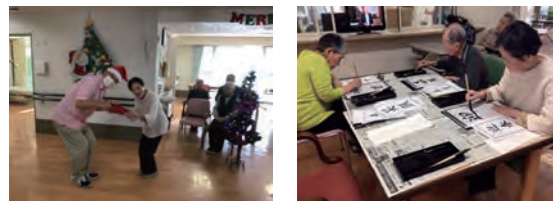
アマビエと疫病退散!

すっかりお馴染みとなったアマビエと、疫病退散を願いました。ご面会はリモートになりご家族と過ごすことは難しい状況ですが、アマビエが見守るなか、語らいのひと時を過ごしていただいています。



季節を感じて

晩秋のある日、心地よい外気を浴びながら黄金色に実ったみかんを手にしてみました。クリスマスは小人数のグループで集い、出張サンタは大忙し。書初めでお正月を迎える準備も整いました。



ご家族アンケートを実施しました

昨年は家族懇談会の開催を見合わせ、ご来所いただくのも難しい状況となりました。ご家族にアンケートによるご意向調査を行いました。

調査実施 令和2年9月(成幸ホーム)
配布数: 78名 回答数: 55名 回答率: 71%

1. リモートによるご面会(予約制)を利用していますか

利用した 32.7% / していない 67.3%

【していない理由】希望する日時が合わない / 本人がリモートの理解が難しい / 本人が難聴で耳元でないと聞こえない / 自宅からのリモートを希望

2. 電話でご利用者との会話を希望しますか

希望する 32.7% / 希望しない 58.1% / 無回答・その他 9.2%

3. ご面会ができない期間に気になることは何ですか

体調面や認知症の進行が心配 / 食事が摂れているか / 散髪や日常のケアに変更があるか / 衣類や不足しているものはないか 他

4. 体調の変化以外に知らせて欲しいのはどんなことですか

電話をかけて聞いている / 軽微な変化も教えて欲しい / リハビリの状況 / PCR検査について 他

5. 法人(施設)のホームページをご覧になっていますか

見ている 27.2% / 見ていない 61.8% / 無回答・その他 11.0%

【見ていない理由】ホームページがあることを知らなかった(多数) / スマートフォン、PCがない / 記事が更新されていない / もっと施設の情報が欲しい 他

ご協力ありがとうございました。いただいたご意見・ご要望を今後にかかしてまいります。

在宅介護支援センター

この1年間で第一に気をつけたことは、家庭訪問は必ずマスクを着用し、手指の消毒はもちろんのこと、訪問時間はできるだけ短時間で済ませるようにしたことです。

次に気をつけたことは、コミュニケーションの取り方です。支援するうえでのコミュニケーションは、顔の表情や身振り手振りも重要です。マスクをすると顔の半分が見えないことが難点です。こんなときは「目は口ほどに物を言い」ということわざ通り、表情を豊かに、やさしい眼差しを心がけ、顔を大きく動かして頷き、たとえ見えなくても口元には笑みを持って会話をしました。



この新しい訪問様式は、やがて日常になるかも知れません。そんなことを思いながら、今日も一つひとつのご相談を大切に承っていきます。

生活サービス室

今年度の「品川保健従事者実践・研究発表会（令和3年2月6日）」はオンラインでの開催となり、発表の収録が行われました。今回の演題は「ショートステイにおける荷物紛失予防と効率化」（成幸ホーム）で、タブレット端末を用いた荷物管理についての発表でした。発表の職員は、事前に施設で声の出し方や表情、カメラ映りの確認など入念なりハーサルを行い、満を持して収録に臨みました。

この研究発表会は、介護、福祉、看護等に携わる品川区内の事業所が参加するもので、発表当日は施設職員や学生がそれぞれの場所から視聴参加します（主催：品川介護福祉専門学校）。今後もオンライン研修の利点を生かし、法人の勉強会にもこのような研修方式を取り入れ、学びの機会を広げていきたいと思ひます。



私たちの「新しい生活様式」あれこれ

昨年からはじめた「新しい生活様式」に合わせて、私たちは日々創意工夫を重ねています。今回、その取り組みの一部をご紹介します。

また、定期開催をしております「高齢者と介護者のための料理教室」は156回をもちまして休止中ですが、再開するまで新たな形で皆さまに料理や栄養の情報を発信してまいります。

医務訓練室

令和2年4月から始まった緊急事態宣言後を境に、訓練は感染に留意して「3蜜」を避けて行ないました。ご利用者を感染から守り、以前と同様のサービスを行なうことを念頭に、機器を使わないプログラムを考え実行しました。

閉じこもりがちな運動不足を補うための体操を考案し、今までにない制限下の中、会話が減ることによる脳の動き等も予測して、楽しく考え、体も心も元気になるように工夫しました。当初は「筋肉痛になりそう」という声も聞かれましたが、その方に合った運動量の調整をし、体を動かして筋力を維持される姿に、安定感が増してきています。ご利用



者皆さまの日常がさらに円滑に過ごせるような体力づくりができ、コロナ禍のピンチをチャンスに転換できました。

栄養室

この1年は行事やイベントの縮小や中止が相次ぎました。しかし、この状況だからこそ元旦は「今年はいよいよ年になりますように」と職員が一丸となり、心を込めておせち料理を提供いたしました。おせちの定番でもあるお雑煮、黒豆、数の子などが彩りよく並んだお膳に、水引や南天を添え、一層華やかになりました。このような「お楽しみ食」は、季節感を大切にし、旬の味を楽しんでいただけるよう、飲み込みづらい方にもお一人ずつの状態に合わせてお出ししています。

食事はやはり会話をしながら賑やかに「見て」「食べて」堪能したいものです。世の中は新しい生活様式になり、厳しい状況が続いていますが、これからも安心安全を第一に楽しい食事サービスを考えていきたいと思ひます。



成幸ホーム 氏家 トキ 様 (100歳)

ご長男の氏家和夫様より寄稿いただきました。

私が幼い頃に母から聞いたのですが、母は東京押上に生まれ、4人家族のようでした。昭和15年頃に結婚をして17年に私が生まれ、19年に父が出征をしたそうです。20年の東京大空襲により家は焼けて、母と私と乳飲み子の弟3人で父の郷里である福島に疎開をしました。私が3歳の時です。父の家は10人近くの大家族で母は今までの暮らしと一変し途方に暮れたようです。そこからさらに親戚の家に移り、私たちの生活が始まりました。

母は田舎の言葉が分からず苦勞したようです。私も子ども心に何を言っているのだろうと思っただけです。母は親戚の家で生まれて初めて百姓の仕事をして、少しの食料をいただきながら生活をしてきました。

昭和20年半ばを過ぎた頃だったでしょうか、薄覚えの父の戦死を知りしばらくして遺骨が届いたのを覚えています。母はたとえ姿が見えずとも夫が帰ってきたことに安堵したと思いますが、壺に納められていたのは「小石」でした。何年か過ぎた頃から母の再婚話が来ても子どもたちのためにと頭を下げるようなことはありませんでした。

母は朝早くから夜遅くまで行商をして私と弟のために働いてくれました。私は中学を卒業すると上京して就職したので、「一緒に暮らそう」と言いましたが東京は怖いから嫌だと返事をされています。福島での生活が40年余り過ぎ、母が病気になったのを機に東京に連れてきました。母の人生を振り返ると母に申し訳ないと思います。母にとって今が人生の中で一番幸福な時間だと思っています。

施設にお世話になって4年と少しですが面会に行くと顔が優しく見えます。昔のような厳しい姿は消えました。私は本当にうれしいです。これからもよろしく願い申し上げます。



戸越台ホーム 千葉 琴 様 (100歳)

ご長女の石井貴美子様よりお話を伺いました。

母は、13人兄弟の長女として品川に生まれ、品川で育ちました。私が3歳の時、父は肺炎を患い亡くなり、母は私と弟を必死で育てたと思います。その弟も6歳で川の事故で亡くなりました。

ある日、私の書いた作文のことで、母は学校に呼び出されたことがありました。同年代の友だちは、家に帰ってから友だちと遊んだり、親子で楽しいひと時を過ごすのに、私は母が仕事から帰るまで、掃除をしたり玄関先に打ち水をしたり、母が言いつけたことをしっかりやらねばなりません。あまりにも厳しいので、「家の母は継母ではないか、他に本当の母親がいるのではないか」というようなことを書きました。担任の先生が母にどんな育て方をしているのか問うたそうです。父親の分もしっかり育てようとの思いがそのように伝わっていたのかと、母は大変ショックを受けたようです。母は、礼儀については特に厳しく、それが私の中にしっかり染み込み、勤め先などで褒められることが多々ありました。今では感謝しかありません。

母は三菱鉛筆の工場で永年働きましたが、鉛筆からボールペンに移る時代に退職しました。私が勤めるようになってから、お給料日には大井町で待ち合わせて外食するのが楽しみでした。

結婚して暫くしてから一緒に暮らすようになったのですが、本来料理が得意ではなかった母は、私の書いたレシピ通りに調理し、子どもたちの弁当を作ってくれました。私が仕事を続けられたのは、母のおかげです。地域の老人会に参加したり、旅行が好きで一人であちこち出かけ、行った先で友だちを作ってしまうほど、活発で社交的な母でした。

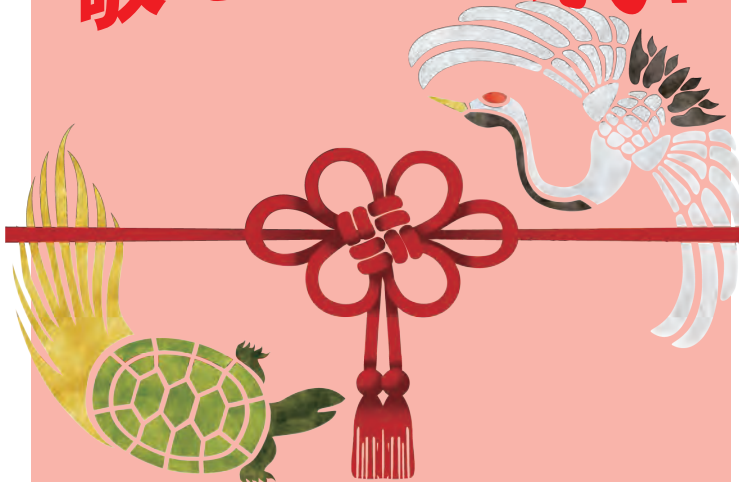
「幸せは相手に求めるのではなく、自分でつくるもの」数々の悲しみと苦勞を乗り越えてきた母から学んだことです。

今はあまり話すことがなくなりましたが、100歳を迎え、病むことなく穏やかに日々を過ごして欲しいと願うばかりです。



特集

敬老のお祝い



三徳会の4つの特養ホームでは9月9日に敬老式典を行い、「米寿」、「卒寿」、「白寿」、「百歳」、「百歳以上」のご利用者をお祝いしました。

ご家族もご参加いただき、様々な人生を送って来られた皆さまへの敬意と感謝の気持ちに包まれていました。

今回、お祝いの方々の中から各施設おひとりずつに、今までの人生の思い出などについてお話をうかがいました。

※各施設のお祝いの方々の人数は表のとおりです。

	米寿(88歳)	卒寿(90歳)	白寿(99歳)	新百歳	百歳以上
成 幸 (定員 80)	4	9	3	2	5
戸越台 (定員 72)	8	2	4	2	8
荏 原 (定員120)	9	7	5	4	6
平塚橋 (定員100)	9	9	4	2	2

荏原ホーム 白石 さだ子 様 (100歳)

100歳を迎えられたご本人にお話を伺いました。

白石様は東京都品川区のご出身で、現在お子さまが4人、孫が3人、ひ孫が4人いらっしゃいます。白石様はいつも「私は優しい子どもたちとかわいい孫たちがたくさんいて、幸せなの」と嬉しそうに話してくださいます。

白石様は20歳で結婚されましたが、結婚前はなんと政府機関でタイピストをされていました。タイピストの仕事は忙しく大変だったそうですが、「とてもやりがいがあったのよ」と両手でタイプライターを打つ仕草をしながら、誇らしげに話してくださいました。

結婚後は専業主婦となりましたが、「主人はとても優しく、喧嘩なんかしたことのないよ、今でも主人と結婚してよかったと思っているの」と当時を懐かしく振り返られていました。

また、白石様は料理が得意で、毎日ご主人のために様々な料理を作っていたそうです。得意料理はなんですかとお伺いしたところ、「そうねえ煮物かな、それと家のぬか漬けはおいしかったわよ」と話してくださいました。「ぬか床は手間がかかるけど、手間をかけた分だけおいしくなるのよ」と笑顔で教えてくださいました。また、白石様のぬか床は継ぎ足しながら70年続いて、現在は次女様がそのぬか床を引き継いでいるそうです。親から子への素敵なバトンタッチですね。

白石様は常にどんな時も必ず職員に「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えてくださいます。礼儀正しく誰に対しても優しい白石様を、大勢の職員が尊敬しております。これからも元気で過ごしてください。



平塚橋ホーム 小野 コト 様 (100歳)

ご長男の小野笑末彦様より寄稿いただきました。

母は、横須賀市の観音崎の漁師の家に、八人兄弟姉妹の三女として生まれ、子どもの頃は房総半島を望む海岸で毎日泳ぎ、美味しい魚介類を食べ育て育ったそうです。就職で上京し、その後、母の義兄(姉の夫)が昭和13年に下町工場を手伝うことになりました。終戦後、義兄の遠い親戚で、電気メーカーに勤務していた父と結婚しました。朝鮮特需が始まってからは、工場も忙しくなり、工場の切り盛りをしていく必要が生じ、父母とも、当時でいう「夜なべ」をいつもしていたそうです。高度経済成長時代になると、母は自ら東北地方に集団就職の募集に行き、人材採用をしてきました。その後も、工場を存続させたいと気持ちで、技術屋である父を支えてきました。つい、2年位前には、息子である私に「社員に、ちゃんとボーナス出したの?」と、何故か、その時期になると詰問してくるのです。それほど、経営においては苦勞したのだらうと思いました。工場経営がやっと軌道に乗り始めたころからは、やっと時間的な余裕もでき、自分自身の趣味を見つけ始めました。「琴」「お仕舞」「俳画」「歌舞伎鑑賞」と、精力的に趣味に取り組んでいた記憶があります。施設の職員の方からは、温かい介護と医療、そして声掛けをいただいております。本人、家族共々、ありがたく思っております。最近、リモート面会のとき、必ず、私に「マスクしているけど、風邪でもひいたの?」と聞いてきます。「新型コロナウイルス感染、なんのその!」で、微笑ましい限りです。新型コロナウイルス感染状況が続いておりますが、この施設で、穏やかに過ごせることに心より感謝しております。



戸越台ホーム リニューアルしました！



平成30年8月から始まった戸越台複合施設の大規模改修工事は、令和2年8月に高齢者施設の5階～10階部分が竣工しました。その間在宅サービスセンターは、東中延1丁目に移転して事業を行いました。在宅介護支援センターは、現在も平塚2丁目で事業を行っています。

特養の入所者は居ながらの工事となったため、フロアや居室を変更しながら生活していただき、職員はご利用者の安全を最優先に考えながら創意工夫を重ねて、生活に支障がないよう日々の業務に携わりました。

改修後の特養フロアは、全体的に生活の場らしい木目調の落ち着いた雰囲気、居室はパーティションで敷居を作り、プライバシーの配慮ができるようになりました。風呂場は一人おひとりの状態に合わせて無理なく、気持ちよく入浴できるように機械浴室にミスト浴槽を完備、天井には走行型リフトを導入し、ご利用者の安全な移乗介護と、職員の腰痛防止にもなっています。

約2年間、移転先で過ごされた在宅サービスセンターのご利用者を、令和2年9月14日に8階のデイルームとリハビリ室にお迎えしました。「前より広く感じるわ」「明るくて、きれい」の声や、8階からの眺望に「前よりビルが増えたかしら」と、時の変化を感じているご利用者もいらっしゃいました。「リハビリの戸越台」と呼ばれるほど広いリハビリ室で、平行棒による歩行訓練、滑車を使った上腕の筋力訓練、肋木を使ったの立位訓練や集団体操など活発に再開できるようになりました。9階食堂では、できたての食事を召上がり、栄養士や調理師に感想を伝えることもできます。待ちに待った「お楽しみ食」は、きれいに盛り付けられた懐石風の料理で皆さまに大満足されました。

現在は中学校部分と共有施設や設備の改修工事を行っており、昨年からのエレベーターのリニューアル工事に着工しています。すべての完成は令和4年3月で、1階に在宅介護支援センターも戻ってきます。新たに生まれ変わる戸越台複合施設で、ハード面だけでなく、ソフト部分においてもご利用者がいきいきと、楽しく元気に過ごしていただけるよう職員一同、日々奮闘中です。

成幸ホーム

新願成就



12月も半ばを過ぎると今年も1年早かったなあとつい口にしてしまいます。コロナ禍で行事や外出などもままならない日々ですが、アイデア一つで楽しめるはず！と年明けに向けて正月飾りを手づくりしてみました。

まず、色付きの紙粘土をよくこねて、お菓子の型でハートにくりぬきます。紙粘土が乾かないうちに「賀正」や絵馬などお好みのスタンプを押します。あとは小さな穴を開けて、乾くのを待ちます。乾いたらリボンを通して出来上がり！

紙粘土の色は2色用意して、お好きな方を選んで作っていただきました。出来上がったものはお部屋に飾ったり、引き出しにしまったりと皆さん思い思いに楽しまれました。



平塚橋ホーム

品川蕪

「品川蕪」は昭和初期には消えてしまったようですが、平成20年に地元の方のご尽力で復活したそうです。その後は学校などで食育の一環として栽培している小学校もあると聞いています。

昨年の9月に、ちょっとしたご縁でこの「品川蕪」の種をいただき、利用者の皆さまと種まきをして大事に育てています。可愛いらしい蕪の葉が出たら、もっと大きく育てますようにと間引きをしました。間引いた葉は、みそ汁や和え物にするとさっぱりとして何とも美味。



もしかしたら、品川宿で歴史上の偉人が口にしたかもしれない「品川蕪」が大きくなったら、どうやって料理しようかと今から楽しみです！



荏原ホーム

次の作品は何かな



今回の荏原ホームの「施設あれこれ」はショートステイでの作品づくりについてご紹介します。

作品の写真を見て、何が材料か分かりますでしょうか。そうです！材料は「ペットボトルの蓋」です。第1弾の作品「達磨」ですが、実物は直径30cmあり、ペットボトルの蓋を540個使用しています。今にも動き出しそうな迫力があります。作り方も手が込んでいて、着色したペットボトルの蓋を台紙に貼り付け、それを重ねていって作ったそうです。

第2弾の作品は「豚さん」です。とても愛嬌があり可愛い出来ばえです。現在、第3弾の作品を思案中です。皆さま、引き続きペットボトルの蓋の寄付をよろしくお願いいたします。

小山の家

床工事で大移動

このたび小山の家の床の張り替え工事を行うことになりました。開設してから20年以上がたち、年期の入った建物となっていました。特に床の傷みがひどく、大掛かりな工事が必要となりました。約1週間程度の工事ですが、床の張り替えは居ながら工事ができず、引っ越しが必要となりました。



引っ越し先は、荏原ホーム2階の大きなひと間をかりてデイルームとしました。利用者の皆さまはいつもと雰囲気が違う為、戸惑ったり緊張している様子でした。しかし時間が経つにつれて緊張もほぐれ、作品づくりをしたり、歌を唄ったり、動物のDVDを見たりと楽しく1日を過ごすことができ、1週間もあっという間に過ぎてしまいました。

今回の大移動について、ご協力いただいた関係者皆さまには感謝しかありません。本当にありがとうございました。



平塚橋ゆうゆうプラザ

地域からの応援に元気が出ます！

～もうすぐ春がやってきます～



昨年1月に「新型コロナウイルス感染症」のニュースが流れたときに、ここまで長期化すると誰が予測できたでしょうか。

平塚橋ゆうゆうプラザ（多世代交流支援施設）は、通常は子どもから高齢者の方が多数いらしてましたが、コロナ禍の影響により、現在は施設の一部をご利用いただいている状態です。コロナが収束しない中、心身、経済、生活とあらゆる面で多大な影響を受け、健康な方でもストレスが蓄積される傾向にあります。

そこで、こんな時こそ地域のパワーを結集したいと、地域住民の皆さまからの「メッセージ」を募集し、住民同士が励まし合う機会を設けました。一つひとつに心が込められたメッセージは、私たちに希望と勇気を与えてくれます。

なかには小学生が一生懸命考えてくれた作品もあり、多世代にわたる地域と皆さまとのつながりを感じます。また、趣味をいかした絵手紙や俳句もあり、寄せられた作品はどれも味わい深く、窓ガラスの掲示物に足を止めて鑑賞される方もいらっしゃいます。

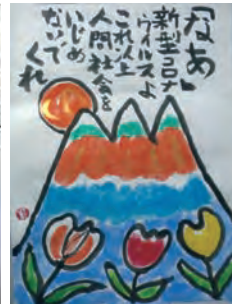
今回はそんな作品の一部をご紹介します。

「お店やさん、大丈夫ですか。いつもコロナに気をつけてください」

「コロナになっている人をはやくなおしてあげてください」

「とりどりのマスク生まれぬ疫の夏」

作品はゆうゆうプラザ正面窓ガラスおよびホームページに随時掲載しております。ぜひご覧ください。



職員リレーエッセイ



戸越台ホーム
医務訓練室
大河原 知子

私の宝物は、曾祖母の代から引き継がれたぬか床です。私は「ぬか子」と呼んでいます。風呂場に樽を置いて、毎日会話しながらかき混ぜています。帰宅後は、すぐに「ぬか子」の様子をみて、中からきゅうりを一本取り出し、湯船に浸かりながら丸かじり。温かいお湯に包まれて、程よい塩分が身体中に染み渡り、疲れも吹っ飛びます。まさに至福の瞬間です。

以前、ご利用者の訓練実施中の合間に、ぬか味噌談義に花が咲きました。昆布を入れると出汁が出て美味しくなる、夏場はよくかき混ぜないとだめになる、自家製の茄子を入れたら、とてもよかったなど皆さん、我が子の話をするように、いきいきとぬか床や漬物の話をされました。何より大事なものは、声をかけて愛情を注ぐこと。

ひと時話が盛り上がったところで、「私たち、ぬか友だね」と大笑い。そのあとは、不思議と歩行状態がよくなったり、食欲が沸くといった、ぬか味噌パワーに驚きました。

私の手はぬか味噌に育ててもらった気がします。日々かき混ぜていると、温度や塩加減、水つぼさなどがじんわり伝わってきて、ぬか床の調子や訴えなどが勘で分かるようになってきました。

ご利用者の中には、まだまだ先輩がいらっしゃるの、楽しみながら続けていきます。

さて、今日の「ぬか子」の気分はどうかしら。



ご報告

新型コロナウイルスは現在も収束の兆しがみえない情勢となっております。昨年9月、本年1月に荏原ホームにおいても感染者が発生し、品川区保健所の指導の下、フロア内のゾーニングや消毒の徹底などできる限り拡大防止につとめました。品川区をはじめ皆さまから、衛生物品の寄付、励ましの言葉などご支援いただき、心より御礼申し上げます。

品川区介護サービス従事者のPCR検査をはじめとして、今後も三密を避けた環境整備、ご利用者や職員の健康管理など感染対策を強化してまいります。